

C-up ワールド

2003 年 8 月号

2003 年 7 月の山行記録

自主山行

釜ノ沢東俣～鶏冠尾根下降丹沢集中

7/20(日)～7/21(月)

参加者

末木俊之・田口浩昭・山野昭人(SL)、横川秀樹(L)

計 4 名

行程

7/20(日) 5:45 西沢溪谷バス停前を出発
6:30 鶏冠谷出合
9:45 釜ノ沢出合
10:40 両門の滝
12:15 ミズシ沢出合(ビバーク)

7/21(月) 4:00 起床
5:25 出発
6:50 甲武信小屋
7:25 甲武信ヶ岳
8:10 木賊山
11:10 鶏冠山
15:10 鶏冠谷出合

天気

初日 曇りで時々晴れ間がのぞく。
午後雨。夕飯時は一旦やんだ。

二日目 夜中からの雨が朝にはやむ。
が、その後断続的に雨。

感想

釜ノ沢は、出合までが遠いが、両門の滝を始め、流れ込んでくる沢(西のナメ沢、東のナメ沢など)がとてもステキな景観を作り出していた。

滝の登攀自体は難しくはないが、両門の滝下部で S 氏が 4m ほど転落するというアクシデントがあった(奇跡的に無事)。滝はヌメっていて滑りやすいので注意が必要だ。

夜は盛大な焚火をしようと考えていたが、乾いた木がなく火がつかない。ウチワがないのも辛かった。タープとシュラフカバーだけのビバーク(標高 1800m 地点)はかなり寒く、睡眠は不十分だった。

翌日は、ビバーク地点から 1 時間ほどで甲武信小屋に到着。甲武信ヶ岳山頂を往復後、木賊山から鶏冠尾根を下降する。しかし、これがナントモ長かった。

あるガイドブックには下山に 3 時間とあったが、まず鶏冠山まで 3 時間かかってしまう。そこから少し進むと、第三岩峰があるがこれは左へ迂回。(まっすぐ行くと 20m の懸垂下降) そのあとも、岩稜帯が続き、数メートルの懸垂下降を 2 回したり、藪を漕いだりして、鶏冠谷出合についたのは木賊山を出て 7 時間もたっていた。

ルートファインディングについては、10～20m おきにある赤テープを注意深く辿って行けば、迷う心配はない。ただ、我々は一回迷って引き返したりもしたので、テープの見落としには十分注意したい。また、木賊山から鶏冠尾根に入るルートを見つけるのに若干てこずった。

2 日目は雨の中での行動ということで、精神的にも疲れたが、ステップアップになる良い経験だったと思う。

報告者 横川 秀樹



自主山行

丹沢・小草平/沢(遡行&下降)

7月21日(月・祭日)

参加者

- 木之下 悟
- 坂本 由以 (SL)
- 久野 真由美 (L)

計3名

コース・行程の概略

- 7:00 大倉・山岳S C付近 集合
- 7:20 同 発 →車1台→
- 7:45 二俣
- 8:00 二俣から入溪
- 9:40 遡行終了点
- 12:20 二俣 →車→
- 13:10 山岳S C付近 (集合場所)

コースの核心・ポイント

初歩的な沢で、ルートファインディング・三点確保・状況判断などの遡行技術の基礎の確認。
支点の取り方・懸垂など下降技術の練習。

コメント

いつ雨が落ちてくるかな、という天気模様。
設定した集合時間(7:30)よりも早くメンバーの車が次々と到着し、「木之下車」1台で、早めの出発となりました。祭日というのに天候の為か、二俣にはほとんど駐車車両はありませんでした。
入溪して、勘七ノ沢出合。連日の雨のせいか、勘七のF1は、ダイナミックな水量でした。同様に、小草の最初の5m滝から以降も、水量は多かったです。
滝、それぞれは3~7mと小さく、ガイドブックには「全て直登可能」とあります。しかし、シャワーでは目も開けられずの状況で、直登ルートをいろいろ探し、滝の直登がダメなら高巻いたりしながらの遡行。
初歩的な沢とはいえ、沢は状況によって随分変化するものだ、という良い勉強にもなりました。また、ルートを探すのはなかなか楽しい作業でした。
沢が伏流となり始める手前で、遡行終了し、引き続き、下降。クライミングダウンできそうかな？こ

こはザイルを出そうか？とか、ザイル出す際も、支点をどこにしようか？この支点でザイルの回収ができるか？など、下降はいろいろ考える場面があって、緊張ながらも楽しかったです。

下降もそろそろ終盤、というあたりから、雨。二俣に辿り付いた時には驟雨でした。この日、この沢に入溪したのは私達だけで、沢を独占状態！。

半日行程の小さな沢でしたが、遡行&下降、1日分はしっかり堪能できました。以下、メンバーのコメントを・・

K氏：「遡行も楽しかったが、下降は数倍おもしろかった！」

Sさん：「小草平は、『一人でも楽しめ、遡行の緊張には少々欠ける』とあるが、今回は水量のせいだろうか、ダイナミックに水が流れ落ちる滝にはけっこう圧倒された。ロープを出すまでではなかったにしろ、登りきれずに降りて巻いたり、シュリンゲや他のメンバーに助けられての遡行となった。まだまだ、登攀ルート読みが甘いと反省。沢の下降は、緊張の連続で気が抜けず、支点探しなど、凄く勉強になる。勘七との出合で、クレソンをごっそり収穫。若く、スマートなクレソンだったが、なかなか筋がしっかりしていた。モチロン、おいしかった。去年のナメラ沢の白舞茸・今回のクレソン。岩魚や山女・・・沢は、美味しいものもいっぱいだ！」

報告者 久野 真由美

△△△△△△△△△△△△△△△△

自主山行

劔岳(早月尾根)

7/30(水)夜発~8/1(金)

※劔沢で講習に合流

△△△△△△△△△△△△△△△△

参加者

松本善行(SL)、横川秀樹(L)

計2名

コース・行程の概略

7/30(水)夜発~8/1(金) ※劔沢で講習に合流

山行のポイント

登りの体力強化
岩場の通過

コメント

7月30日の急行能登で上野駅を出発。松本さんは熊谷から乗車した。

翌31日朝5時半、滑川着。予報は晴れだったがなぜだか雨が降っている。駅の地下道を抜け、富山地方鉄道の滑川駅へ移動する。無人の寂れた待合室で待つこと30分。2両編成の列車がやってきて、上市まで乗車。上市駅隣接のファミリーマートで食料を補給後、タクシーに乗って40分、馬場島に到着した。タクシー代は約6700円。

さて、劔岳山頂へと向かう早月尾根、初日の行動は標高2200mの早月小屋まで標高差1500mの登り。途中、田中講師率いる遠足倶楽部の隊に追いつき、小屋には昼過ぎに到着。長い午後を持て余し、昼寝などをして時間をつぶす。

翌朝は5時過ぎに起床。7時前に出発する。前日の疲れからペースが上がらないが、山頂直下の鎖場なども問題なくこなし、10時過ぎに劔岳山頂に到着。ガスで全く周りが見えないが、無線で久野さんと交信することができた。

下山は、カニの横バイを慎重に通過し、前劔一服劔を通過して、14時前に劔沢キャンプ場着。久野さんと佐々木さんの二人は既に先着。金沢さんら本隊も程なく到着した。

投稿

C-UPコラム『新人クライマーのひとごと』

第9回

究極の登攀???

ボート競技のことを少し紹介したい。ここでいうボートとは、もちろん競艇でもなければ、公園の池でデートのときなどに乗る手漕ぎボートともちょっと違う。使うのは、レース用に作られた細くて長い艇。8人漕ぎのエイトでは約17メートルの長さがある。この艇で、直線距離2000メートルを、脚・腰・腕の筋肉をフルに使って漕ぎぬくという競技人口のそう多くない地味なスポーツだ。(山塾本科にはボート経験者が私を含めナント3人もいる!)

このボート競技、全日本の大会やオリンピックなどでは、湖などの静かな水面上で行われるのが普通だが、驚くことに、今では水のない陸上でも大会が行われるようになってきている。

ローイング・エルゴメーター。漕ぐ力を測定するマシンのことだ。この機械を体育館に何十台も用意して行われる陸上のボート大会では、選手達は2000メートルを何分で漕ぎ終わるかをマシン上で競う。体育館の中は、熱気でムンムン。エネルギーの消耗度は、水上でボートを漕ぐのと全く同じか、それ以上という激しさだ。(※1)

この大会の長所としては、

- ①荒天でも実施できる。
- ②一人でも参加できる。
- ③選手が体ひとつで参加できる。

(ボートやオールを用意する必要がない)

- ④全国各地で同じ規格のマシンを使って大会が行われるため、日本中のボート選手のランキングが作成される。

といった点が挙げられると思う。

さて、スポーツ・クライミングの世界を考えてみると、なんだか似たような状況だ。いや、多分ボー

トよりも先へ進んでいるような気がする。つまり・・・

- ⑤岩のないところ(室内)でクライミングがごく普通に行われているし、
- ⑥荒天でもクライミングができるし、
- ⑦一人でも手軽にできるし、
- ⑧道具を一切準備しなくても楽しめるし、
- ⑨壁の確度とホールドを共通にして、世界中の人が同じ課題に挑戦するという取り組みが行われつつあるからだ。

どうでしょう？

でもこれって、上の⑦と⑧を満たすということから言えば、ボルダリングに限定されますよね。なんだかこんなことを考えてみると、クライミングと言うのは、究極的にはボルダリングの方向へ収斂しているのかなあ、なんて、あまり根拠はないのですが、ちょっと感じたりもしています。

でもやっぱり山塾イズムとしては、アルパインルートや沢を登って、最終的にはピークで乾杯！ってのが最高ですなあ。

今月は、雨で北岳バットレスが中止になり、何もすることがないお盆休みの中、とりとめもなくそんなことを考えてみました。(秀)

(※1)水上では、風や波などでボートが左右に傾むくことがあり、そんなときは全力で漕ぐことができない。しかし、陸上のローイング・エルゴメーターでは、バランスが崩れないので、常に全力を出すことが可能。

編集局から

今月号は自主山行原稿3本でちょっと短めでした。8月は台風による土砂崩れで、南ア・明神谷～大無間・小無間夏合宿中止。北岳バットレスも雨のため中止でした。9月号はちょっと寂しくなりそうです。自主山行された方は、ぜひ山行報告原稿お願いいたします。山塾のホームページ(山行報告入力フォーム)にて山行報告を入力し送信して頂くと、私にメールの形式で自動的に送信される仕組みになっております。本科生のみなさまにはご協力よろしくお願い申し上げます。また、報告文章掲載が抜けていた場合にはご指摘ください。次号に掲載するようにいたします。

アドレス

無名山塾

<http://www.sanjc.com>

Phone 03-3941-3481

Fax 03-3941-3482